

故障診断整備(不具合対応整備)について

故障・不具合は予知の難しいケースが多く突如として起こります。長期使用車両やシビアコンディションでは特に注意が必要となります。

経過年数が伸びるにつれて故障・不具合発生率は上昇していく傾向となります。

故障・不具合に対応する為の「故障診断整備」は下記のプロセスに基づき作業を進めます。

ここでお客様へご理解を願いたいことは、この一連の整備作業は難易度が高いケースが多く、作業時間も延びる傾向にあり、速やかな御見積や確実な返車スケジュールのご案内が難しくなっております。

以下のようなプロセスで作業をすすめるのが基本となっております。

①症状の確認とお客様への問診。

気温、湿度、天候、路面状況等々の外的要因も不具合・故障の原因を探る上で重要な情報となりますので、まずは運転者様への問診をさせていただきます。症状の確認においては症状の再現に数日を要するようなケースやそもそも症状の再現が出来ないケースもあります。

②スキャンツールと呼ばれる診断機や整備マニュアル等を参照しながら故障部位の特定を行う。

③故障部位の点検を行い原因究明を行う。

故障部位の特定が出来ない場合もあり、その際は推理を行いながら原因となっている可能性の高い箇所から作業を施します。

④必要な整備を行う。

長期使用車両やシビアコンディション車両※の場合、ボルト・ナット等の締結部品が錆や汚れを伴って強力に固着しているケースもよくあり、その場合には「熱を入れる」「冷やす」「浸透材を使用しゆっくり力を加える」「壊す」等、状態に合わせて適切な手段を用いて作業を進めていきますが、大幅に作業時間を取られてしまうことがよくあります。

※シビアコンディション・・・走行距離が多い車や未舗装路を走行するなど厳しい使われ方のことをいいます。

⑤試運転などテストを行う。(改善されていない場合は③に戻る)

試運転も含めたテスト作業(症状によっては一両日経過後にエンジンをかけて症状確認など)を行います。

⑥最終確認点検を行う。

以上が故障診断整備の基本プロセスとなります。

納期が延びてしまう事でお客様を不安にさせてしまっていることもあると思います。可能な限り短い時間でお客様にお車をお返ししたいと考えておりますが、事前に予約を頂戴しておりますお客様のスケジュールも守りながらの作業となってしまうことも合わせてご理解頂ければ幸いです。

弊社ではお客様の万が一の故障・不具合に備えて対応力の向上にも力を入れておりますが、お客様が負担されるコスト、時間、労力を鑑みて、トラブルリスクを下げる為の予防整備や代替のご提案も積極的に行っております。